

## りりこで広がる学びの輪

個別支援学級  
1～6年生、21名  
柿沼先生

## 活動のねらい

凜々子の栽培を通じて、

- 「トマトピザ」を作ること为目标に凜々子以外の野菜も育て、さまざまな野菜の成長過程を比較・観察しながら意欲をもって栽培活動に取り組む。
- 収穫した凜々子を給食で使用する他、地域のカフェや子ども食堂への提供、園芸店との交流等を通じ、多くの方々と協働することの楽しさを知ると共に自己有用感を高める。

## この活動のポイント

児童自らが立てた目標に向かって、計画的に栽培活動を進めたこと。また、トマトの収穫量が想定を上回ったことから、児童が話し合い、地域への提供等の活動を行ったこと。これにより、1年を通じて仲間及び多くの方々と協働することの楽しさを知ると共に、児童の社会参画につながった。

## 活動の概要と流れ

準備	畑の土づくりと並行して、収穫後の調理を見据えた目標を立てるべく、「みんなで食べたいトマト料理総選挙」を開催し、「ピザ」が選ばれた。また、児童でトマトのキャラクターづくりをした。	
定植	当番制で世話をする。強風で折れてしまった苗の茎や芽かきしたわき芽を水につけて発根させた後、再び土に植えて復活させた。凜々子のほか、「ピザ」に乗せる10種類の野菜の栽培を並行して開始した。	
着花	凜々子やその他の野菜の花の学習のため、児童を対象にクイズ形式のポイントラリーを実施した。凜々子の緑の実を観察した後に、ピクルスに調理して試食した。	
収穫	トマトカレンダーを作成し、収穫量の記録を開始。収穫等の作業において、障害者地域活動支援センターの利用者と共同作業を実施し交流した。「トマト料理のレシピづくり」を夏休みの宿題にした。	
調理	夏休み明けに「トマトレシピ発表会」を開催。また、給食の「トマトスパゲティー」に収穫した凜々子を使用してもらい、「凜々子」を紹介するCMを作成し校内で放送した。個別支援学級内で「生地から作るピザパーティー」を実施。その他、地域の子ども食堂などに「凜々子」を提供し、試食会を開催したり、地域の関係者を学校に招いて学習発表会を開催するなど交流を図った。	

## 家庭・地域との連携 オリジナルの活動や学び

## 家庭との連携

収穫した「凜々子」を各家庭に持ち帰り、夏休みの宿題として「トマトの料理のレシピづくり」とその発表会を実施。

## 地域との連携

障害者地域活動支援センターのカフェでの買い物学習、店舗見学、収穫交流、「凜々子」の提供。子育て支援カフェの店舗見学、「凜々子」の提供と試食会。

子ども食堂の見学、「凜々子」の提供と試食会。有志の児童によるボランティア活動。

## 取り組みの工夫と実践の成果

### 🍅 まずはどうやって食べるか目標を設定！

戸塚小学校の個別支援学級では、生活科で毎年野菜の栽培活動を行っています。これまで多品種を少しずつ育てていましたが、22年度は初めて「りりこわくわくプログラム」に参加しトマトをたくさん育てることになり、大きく活動内容が変化しました。

凜々子の栽培活動計画を綿密に立てるため、まず栽培前に目標を設定しました。「みんなで食べたいトマト料理総選挙」を開催し、収穫したトマトを使って「ピザパーティー」を開催することを目標にしました。併せて、ピザに乗せたい約10種類の野菜を育てることも決めました。ところが、全ての野菜を育てるには個別支援学級の畑だけでは広さが足りず、各学年に割り当てられている畑の一部を借り、例年の3倍もの面積で栽培活動をするようになりました。



### 🍅 喜んでくれる人々に支えられて

自分たちの手で育てた「凜々子」を目標としていたピザパーティーに使う他、たくさん収穫できたことから、給食や地域の障害者の方が働くカフェ、子ども食堂、子育て支援カフェに提供して使っていただくことができました。自分たちが育てた凜々子がおいしいメニューとなって多くの人々に喜んでいただけたこと、「ありがとう！」「おいしかったよ！」「これからも、頑張って野菜を育ててね！」という言葉をかけていただけたことは、児童の大きな喜びと達成感を生み、学習意欲を高めることにつながりました。

22年度は「凜々子」の栽培を通して、4つのテーマ「食育」「教科」「地域」「働くこと」のそれぞれを、これまでの活動以上に大きく広げることができました。



## 担当の先生よりひとこと

当初は、「ピザパーティーをしたい！」という自分たちの楽しみを目標とする動機付けから始まった「凜々子」の栽培活動でしたが、結果的には、自分たちのみならず、全校や地域に活動の幅を広げ、多くの人々と関わる活動となりました。その大きな理由は、「凜々子」が想像以上にたくさん収穫できたことに加え、児童が活用方法を相談し意欲的に活動したからです。「凜々子」を仲立ちに地域とのつながりが深くなったことにより、児童の中には、活動を共にした子ども食堂やカフェへ家族と食事に行ったり、子ども食堂のボランティア活動にチャレンジしたりする等、学校内に留まらない学びの場の広がりを感じ、うれしく思いました。今回の活動をきっかけに広がった“地域とのつながり”を今後も大切にして、よりよい学習活動につなげていきたいと思いをします。

## 受賞理由

明確なテーマの基に校内での発信や給食への活用、地域との連携で育てた「凜々子®」を食べていただく機会を作る等、栽培から調理にとどまらない様々な活動が光っていました。「凜々子®」を通じて多くの方々との関わりが広がり、社会参画意識が芽生え、たくさんの経験につながったことをうれしく思います。

